

# 人権だより No.283(2021.9)

## パラリンピックを見て

6年4組 生徒人権委員長 神森 菜那

先日、パラリンピックが開催されていましたね。私は、自分がバスケットボールをしていたこともあり、車いすバスケットボールを観戦しました。

今までのパラリンピックでの車いすバスケット男子日本代表は、9位や、7位などあまり良い成績ではありませんでしたが、今年の東京パラリンピックは過去最高となる銀メダルを獲得しました。決勝ではバスケの強豪国であるアメリカと戦い、惜しくも敗れましたが、その点差はわずか4点でした。



その東京パラリンピックで大活躍した男子車いすバスケ日本代表ですが、私はそのメンバーの古沢拓也選手があるインタビューで答えた「車いすもひとつの『個性』だと思ってもらえるきっかけとなるように」という言葉が心に残りました。また古沢選手はこうも答えていました。「車いすに乗っていてもいなくても、カッコいい選手はカッコいいですから」と。今までに人権について学ぶとき、「障がいのある人をかわいそうと思ってほしくない」という言葉を多く聞くことがありましたが、私自身あまりきちんとその言葉の意味を理解できていないところがありました。ですが、古沢選手のインタビューを見て、やっと理解することができたように思います。今回車いすバスケを見て私も、車いすバスケで一生懸命プレーしている選手をカッコいいと感じました。

今年開催された東京パラリンピックを通して、障がい者スポーツからも障がい者への理解が深まり、障がいがあるからといって『特別視』するのではなく、ひとつの『個性』として受け入れられるようになり、そうした考えが広がることで障がい者差別というものがなくなればいいなと思います。

## 【保護者の声】 文章を読んだ PTA 人権委員の方の感想です。

2020 パラリンピックは多くの方が障がい者について学び、そして感動をして頂いたと思う。それが終わりではなく、“個性”を生かせる、認める世界が続いてほしい。

(4年生保護者)

そもそも、なぜ差別が起こるのでしょうか。人間は自分が有利になりたいという性質を持っているからです。自己肯定感の低い人は違うタイプの人をけなしたり見下したりして、自分の方が上だと思ふことで、相対的に自己肯定感を高めています。簡潔に言うと、自尊心の高い人は、差別やイジメをしません。より多くの方が幸せを感じるようになれば、差別やイジメは格段に減ると思います。

(5年生保護者)

パラリンピックを見て、真剣に競技に取り組んでいる選手の姿は本当にカッコいいと思いました。私たちは皆ひとりひとりが個性あふれる特別な存在です。それぞれの個性が受け入れられ、生かせる世の中であってほしいと思いました。

(6年生保護者)

## 【字を識る】 子は親の鏡、親は子の鑑

今回から、PTA人権委員の保護者の方から「保護者の声」を寄稿して頂くことになりました。子は親の鏡 (Mirror)、親は子の鑑 (Model) といいます。子は生徒、親は教師と置き換えてもいいと思います。私たち大人は子どもの姿に自分を振り返り、子どもたちは大人の姿に自分のあるべき姿を思い浮かべます。差別を解消するために行動するために、世代を超えて学び合う関係を築いていきたいものですね。

## 【お知らせ】

本日 (9月24日 金曜日) 宇和島ケーブルテレビ (U-CAT) で放送される U-CAT ニュースにおいて、昨年度より前期美術部と3年生の人権委員が中心となって作成した人権紙芝居「児島惟謙の一生～差別に立ちだかった児島惟謙～」が放送されます。午後6時から30分ごとにリピート放送がありますので、ぜひご覧ください。

